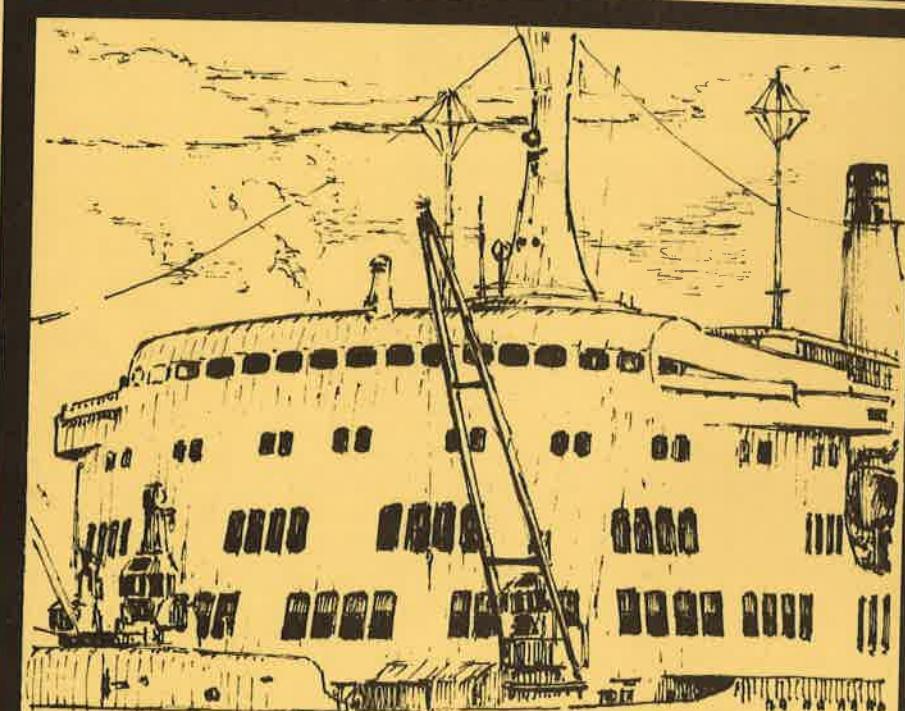


月刊・ブルーアンカー――

Blue Anchor



EUGENIO C. K. MANNAMI
EUGENIO C.

第7号

海文堂書店 1982・8[7]

〒650 神戸市中央区元町通3-5-10

(電) 078-331-6501

目

次

帆船切手と私	八木 亜夫	2
南京街の半世紀	岸 百艸	6
「南京街の半世紀」注解に寄せて	三 船 清	17
むかし「青い錨」	林 喜芳	20
父と食べ物	白 井 操	22
ぶっく・えんど		25
郷土誌の窓		26
海文堂案内版		30

帆船切手と私

八木 亜夫

(毎日新聞編集委員・論説委員)

近ごろあちこちで、私が「帆船切手のコレクター」のように言われ、実のところ、はなはだ迷惑している。なぜそんなことになつたかは、はつきりしている。

私の勤める毎日新聞の朝刊第一面題字下に、歌人の塚本邦雄氏が「けさひらく言葉」というコラムを連載している。それがこの六月に「けさひらく言葉・その一」(毎日新聞社刊)という美しい単行本になつた。この本の表題は、百冊に余る塚本氏の著作のほとんどすべてと

同様、政田岑生氏の手になるものだが、箱には東ドイツ発行の植物切手が二枚あしらわれた。「ひらく言葉」で、花の切手が採用されたのである。使われた切手は、たまたま私が塚本氏に差し上げたものだつた。

塚本氏は本のあとがきの「今朝聞くまで」という文章

に、切手の由来を述べ、「八木氏は夙に帆船を中心とする切手のコレクターとして、知る人ぞ知る逸品の持主云々」と書かれた。私が四年ほど前から帆船切手の収集に熱を入れているのはほんとうだが、「逸品の持主」というのは、およそ実情からかけ離れている。現に社内の悪友たちからは「一品のまちがいじやないのか」とからかわれている始末である。

いま「ブルーアンカ」編集部から、帆船切手について書け、などと不穏なことを命ぜられるに至つたのも、右のいきさつからであろう。聞くところによると、読者の一人から「八木という帆船切手のコレクターがいる」と注進があつたとかで、おそらくその人も「けさひらく言葉」のあとがきを読まれた誤解者のお一人と推察する。

帆船切手の歴史は古い。世界で初めて切手が発行されたのは一八四三年だが、一八五二年には早くも初の帆船切手が英領ギアナで登場した。一八五六年に同じ英領ギアナで発行された帆船切手のうち1セント切手は、世界中にたつた一枚しか残っていないという超珍品である。

こんなに古い歴史があるのだから、帆船切手の大コレ

クターは世界中にゴマンといいる。現在のところ最大のコレクターはイギリス王室、ということになつてゐるが、日本にもその道の大家は多い。ウンチク傾けた大論文を発表している人もある。そこへいくと、私などは「かけ出し」もいいところで、とても帆船切手を論じる資格などはない。また、サラリーマンの資力では、逆立ちしても、たいしたコレクションができ上がる気遣いはない。

それでも、私は帆船切手の魅力にとりつかれて、もはや身動きがとれぬほどなのである。仲間うちでは、このことでは変人扱いされているが、もうあとへは引けない、と思っている。ヴィクトル・ユーゴーを持ち出すまでもなく「人間の造り出したもつとも美しいもの」にとりつかれては、ちつとやそつとは正氣にもどれないのである。夜中、わざかばかりのアルバムを開くと「人間が造りだしたものつとも美しいもの」が、小さな紙片の中の海原に浮かんでいる。それを眺めるだけで、心まことに爽やかになるのが、自分でも不思議でならない。

古今東西の切手を収録したカタログは数種あり、私はアメリカのスコット社のカタログを使つてゐる。4分冊

で毎年発行されるこの大部なカタログの中から、帆船切手だけを抜き書きしてリストをつくるのが大仕事で、いく晚も徹夜同然になる。切手商の店をあさつては、帆船を描いた切手と見れば片端から買い込み、このリストに印をつけていく。一八〇〇年代のクラシック切手もだいぶ集めた。だが、一枚一〇万ドルという大物もあって、世界中の帆船切手を完集するなどということは、初手から不可能なのである。どこまで集めるのか、自分でもまるでアテはないのだが、近ごろは大量の切手を一度見ても、帆船だけはぱッと目につくようになり、かなり要領はよくなつてきた。それでも、どうしても手に入れることができない高価な切手もあつて、しまいには夢の中にまで、その帆船が浮かび出でる仕儀となる。

加えて、切手は毎日のようにどこかの国から新しいものが発行される。近年は小さな独立国が国家財政の重要な収入源として、むやみに切手を発行するようになつた。悪いことにそれらの国々は島国の海洋国が多く、船をテーマにした切手をじょんじょん発行する。帆船切手だけでも新切手は年間五〇枚は下らないだろう。これを漏れ

なく入手するには、一週間に一度は切手商の店頭をのぞくクセをつけないといけない。一度買い漏らすと、なかなかめぐり会えないことも起こる。それでも帆船などは、まだマシなほうで、これが鉄道、花、鳥となると、新切手についていくだけでも息切れがして、とても古いものには手が回らなくなる。

いまのところ集めるのに精いっぱいで、さて、それをどう分類して立派なアルバムに仕立てるかは考えるヒマがない。平均寿命が八十歳近いのだから、先は長い、と思っている。「死んだあとはどうするのか」と意地の悪いことを言う友人もある。「棺オケに入れてもらうワイ」とやり返している。立派なコレクションが遺族の手で売り立てられ、それが切手商の店頭で無残にもバラバラになつて行くありさまを、何度も見た。私自身もそういうコレクションから抜き出して、自分のコレクションに加えて喜んでいるのだから、文句を言える筋合いでないのだが、いかにもわびしい光景なのである。だが、そんなことを心配するほど、私のコレクションは立派ではない。この因果な道楽が、仕事にまるで役立たないかという

と、そうでもない。例のフォークランド紛争の際、初め新聞社ではフォーカランド諸島のくわしい地図が手元になくて困った。紛争の直前にフォーカランドは「難破船シリーズ」の切手を発行した。あのあたりは気候が悪く、昔から船乗り泣かせて、帆船時代には難破する船が絶えなかつた。このシリーズの初日カバー（封筒に切手をはつて初日印を押したもの）には「難破船地図」がついていた。フォーカランド諸島のかなりくわしい地図に、何年に何という船が難破した、という個所を示してある。この地図を複写して、いざという時の用意に、新聞社の編集局のデスクに備えておいた。むろん、のちには正確な地図は手に入つたのだが、急場の用には切手の付録地図が役立つたのである。

個々の帆船切手のことを書いてみても、この雑誌の読者のような専門家には、無用のゴタクになろう。だが、折角の機会だから、手元にあるおもしろそうな帆船切手を見ていただこうことにした。もちろん、この中に「逸品」などというものは一枚もない。夜な夜な私の目を洗ってくれる帆船たち、というだけのことである。



1973年・アメリカ。独立200年記念。史上名高い「ボストン・ティー・パーティ事件」が、4枚の切手で1枚の絵になつていて。

1946年、フィンランド。水先案内灯台序創設250年記念。「ウトの灯台と帆船」。

1876年、英領ギアナ。植民地の「国旗」そのまま使つたクラシック切手の例。

1968年、イギリス。1968年はキャプテン・クックの第1回太平洋横断航海200周年。1979年は死去200年。当たり、多くのねむびらしい数の「クック切手」が發行された。この切手はクックの著者が入った「エンドゲーヴァー券」なるに、ことしは進化論のダーウィン死去100年で、「ピーアル号」の切手が多い。

1969年、ヴァンズ諸島。海賊を意外に多い。なかには海賊の宝の山を描いて見せたものもある。これは、スチーヴンソン死去25年の「宝島」シリーズの1枚。人物はいまでもなく、ロング・ジョン・シリヴァーとジム少年。

1939年、スペイン。コロンブス記念シリーズの中の1枚。「サンタマリア」アントを先頭に「ニニヤ・ビンテラ」の各船を描いた。代表的な三角切手。最近のスペイン切手入賞で、このシリーズもついに高値になつた。

1922年、英領セントキツィア・オヴィス・ジョージ5世コロンブスを描いた通常切手。船上のコロンブスが望遠鏡で陸上を見ているが、コロンブスは望遠鏡發明の100年以上前の入だから、明らかにまちがい。早くから「まちがい切手」の構図だったが、そんなことは知らんとばかり。1973年には、この切手を使った「切手の切手」が発行された。

1975年、マリ。これもアメリカ独立200年ものの一つ。海戦を描いた切手は多いが、これは3枚づきで海対陸の戦いの図々仕立てである。だが、実際は独立戦争の別々の場面を1枚の絵にしただけらしい。

街紀世半艸南岸

家賃 一ヶ月分 金三円五十銭也

但し、二階建一戸。内訳、階下三畳及び四畳半二室、
階上六畳及び四畳半二室。

神戸随一の殷賑を誇った元町の本通りを、一步露路に踏み込むと、これが通り相場の家賃というものだった。そう、空家空地もそこここに転在していく、およそ住宅難などという不粹な文字は、当時の社会字辞典の中には見当らなかつた。これから私が話をすすめようとする俚俗「南京街」のことは、そんなあたじけない時代——今少し正確にいうなれば、明治末期から大正初期にかけての、書き書帖なのである。勿論、口舌から耳心に受けとる間に、多少の誤差はまぬかれないだろうが、曲筆舞文は堅く戒め、飽くまで真當を追うことに専念したつもり

である。にも拘らず、なお若し、誤伝誤記があれば、御注告によつては、十分訂正もし、改稿するに齎でないことを敢て申し添えておく。

はなしの経緯を通すために、題名の半世紀を更にもう半世紀遡つて、明治開港当時の中国人来神の当初より、筆を起して行こう。

わが神戸に華僑が進出して來たのは、慶應三年十一月七日（一八七六年）兵庫・大阪開港以後のことである。長崎方面から十数人が、いち早く、天興の好餌にありつこうとして所謂、華僑獨得の慧敏な触角を伸ばして來たといわれている。そこには、内海の豊富な海産物といわゞ銅、錫等が数多く眠つてゐる筈だ。そして日本人の希望を充たすために砂糖が、くり綿がこの手に握られている。

おあつらえ向きの、結構な商取引ではないか。事実わが

国の大銭は、彼等の吸收するに任せた結果、一時期、小銭の流通が不能におち入り、経済界を昏くしたことがあるくらいだ。その上、開港という慌しさと、文明開花の鴉物入りに眩惑されて、やれ石油ランプだ、洋服だ、ジヤン切り頭髪だと、上海、香港あたりの舶来品が堰を切つたように流れ込んで来る。その一つ一つが欧米人か、さもなくば、これ等の華僑によつて運びこまれたものがばかりである。明治元年十月の調べは、既に二四〇名余の華僑が、神戸めざして自白押しに詰めかけている。この数は、全欧米人の来神に匹敵する員数を示すものである。まず福建人を筆頭に、廣東人、それに次いで三江人（江蘇、浙江、江西）がその主体となつてゐる。それ以後は、累年増加の一途をたどつてゐる。試みに、日清戦争までの漸増率を示すと、左のような数字になる。

明治元年（一八六八） 二四〇名

全一年（一八七八） 六一九名

全二〇年（一八八七） 五九七名

全二三年（一八九〇） 一四三二名

全二七年（一八九四） 一〇〇四名

勿論神戸開港当初は、欧米人の使役人として、香港上

海あたりから扈從して來たものが大多数であつたろうことは、想像に難くない。² 蕁年老化してゆく長崎に見限りをつけて、この新興開港地に、未来の希望を賭けて移つて來る華僑の中には、それ相当の資力と経験にものをいわせようとする、ものもあつただろうが、それは極く限られた一部の商人にしか過ぎなかつた。大勢は将来を夢見る徒空拳組だつた。由來、當時の中国人は、その日常の生活水準が、文明国人中では最も低いといわれながら、その經濟的觀念は、極度に強靱であるばかりでなく

その環境に対しても、愕くべき忍耐力と適応性を素質的に發揮する國民性を持っていた。この大陸的筋肉質が、今日世界の到るところに根を張り、幹をおろし葉を繁らせてゐる因由である。

時到つて、一度一家を成すと、郷閥の子弟を聘び、それに衣食住を供し、家族的色彩に馴染ませ、かかる後、漸く羽翼がととのうと見ると、それに然るべき資材を注入して、これが独立を計るのである。この家族同和の精神は

一再ならず、三度までその信を反えない。三度救助してなお成らざるものはこれを去る——と云うのが彼等の鉄則である。邦人の性急に比較して、華僑の信頼感には、このように高く深いものがある。この思想と実践が、やがて「南京街」という、一種独特の雰囲気をつくり出し、町並を形成するゆえんである。神戸に於ける南京町も生れるべくして生れたものではなく、自然発生的に形づくられたというべきだろう。

開港初期には、非條約国として中国人には居留地に住む権利が与えられなかつた。止むを得ず、彼等は居留地の周辺である西方海岸沿いの地帯、即ち現在の海岸通り栄町通りの裏筋を中心に、山手方面にかけて居を求めた。それ等居留地周辺に散在していた華僑の一群が、明治一〇年前後から、次第に今日の南京町を醸成していったのである。しかし、この東西に長く帶状に伸びた露地うらの街は、義理にも、清浄とか美麗といへたものではなかつた。謂うなれば、一種異様な悪臭をもつた陋巷にちかい観を呈していたに違ひない。

それでも明治二〇年頃には、南側東よりの通称「京屋

・李興祥・麦少澎・盛記・合昌・天華・福和隆・新瑞典等の名を挙げることが出来る。それ等の華商の交易先は南方圏を主として、中国・米国等である。公司・洋行・号等の名称が表示している商社名の、多くは最も有力な投資者で、怡も合資会社の代表者と見做してもよいだろう。なお横浜・大阪の華僑と、神戸のそれとの相違点は、前二者より後者の方が永住性に富み、それだけに店舗も堂堂としていており、これ等大貿易商の多くはすでに帰化し、半端日本人化していた。ただ前者がややもすると日本婦人を妻帯するに反し、後者の家庭には同族の妻が内助の功を挙げていた。しかし終戦後の様相は、必ずしもこの例にならずまないものがあるのではないか。

前半世紀に引きかえ、後半世紀の見聞について、私はより詳しく、より正確に記録を処理して行かねばならない。私は何人かの故旧によつて、その実態を窺い知ることが出来た。その探訪した記録に拠つて、私はおぼつかないながら一葉の略図を作り、それを手書きに、表題を進めてゆきたいと思つてゐる。

の酒倉」の西半分を取り潰し、二五年には残りの東半分家蔵を掃い尽して店舗に改築するなど着着として、街は整備されて行つた。加うるに明治三二年には、日支合議の結果六〇〇円を抛出して、街の清掃を因ると同時に、街路を拡げ、泥濘時の歩行を助けるために、花崗岩の石畳を敷くこととした。今もアスファルトの下には、当時の石畳の残骸がものかなしげに、在りし昔をうつたえるかのように肌を見せているところがある。

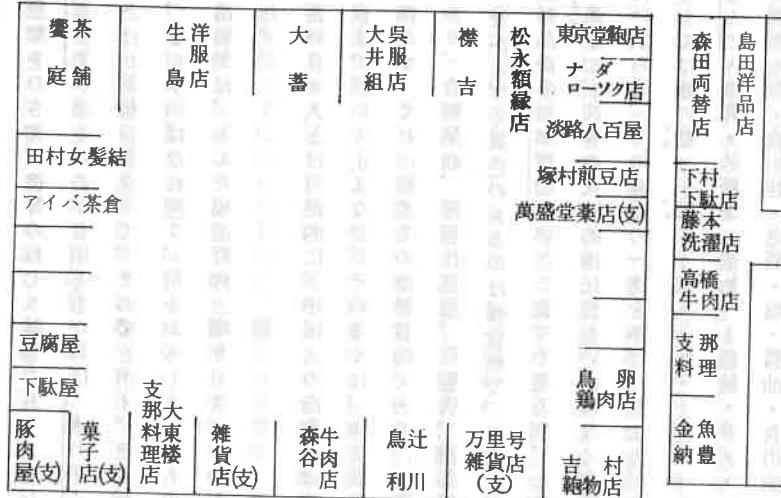
明治四年日支條約が締結されてからは、貿易額も急調に伸展して行つた。明治八年の神戸港輸出額は、三〇一四・〇〇〇円に達し、その主たる商品は銅・錫・寒天・椎茸・樟腦・木蠟等で、輸入額は一七六一・〇〇〇円に満たず、砂糖・生糸・繰綿等がその主要品だった。この数字でも解るように神戸華商の貿易は、飽くまでも輸出を本体とし、輸出は従であった。その全盛期は日清戦争後から明治末期までで、大正に入ると日本資本の介入が大幅に伸び、遂に主導権を日本商社の手に開け渡さねばならなくなつた。當時活躍した著名な華商には、怡和・同泰・同孚泰・裕貞祥・広泰祥・吳錦堂・聯昌堂

南京街は朝市専門である。午後は深閑としていて、殆んど街の呼吸が止まつてゐるのではないかと怪しまれる。各店わずかな軒廂の下を借り、ずらりと店を張つてゐる。商人の威勢のいい売声を聞かれるのは、午前九時ごろからだ。一軒の店先を等半に分けて、生魚屋と干物屋がせり合つてゐる。血生臭いまでに、朝市の景気は上乗だ。沖から船の司厨士が、買い出しに来る。外国通いの船舶に積みこむ食糧品から、居留地ホテル飯、市中の大小食堂からの注文など、怡でいくさ場のような騒ぎだ。品質は神戸第一の優良を表看板にしてゐる。南京街の朝市だけに、値段も張るが、それだけに、他の市に見かけられない、生鮮を誇りにしていた。

舗は出店で、見かけは小つぱけだが、稼ぎは随分と荒っぽい。明石あたりの、目の下尺余の大鯛がひつきりなしに売れる豪勢さは、ここをおいて他には見られない図だ。川魚³・塩鹹物・鶏卵・貝類・漬物・野菜・果物から切花陶磁器等と並び、他の市場にないのは、中国人の持ちこんで来る、生きたスッポンと蟹の縄つきの奇怪な売物だった。

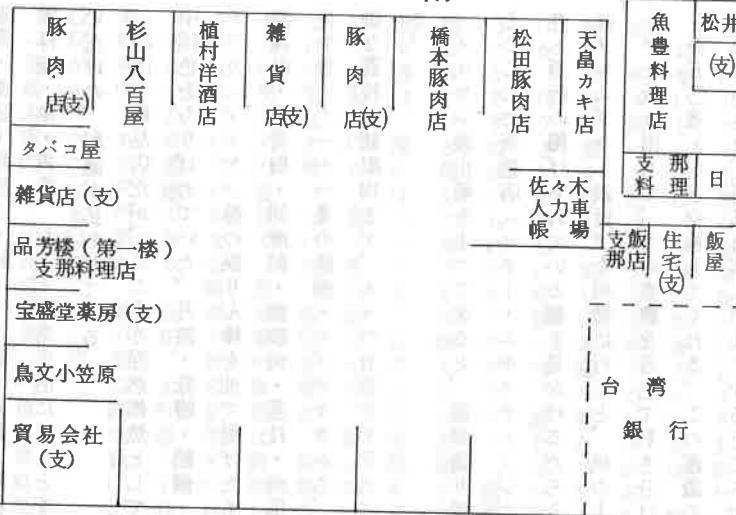
元町通

元町通二丁目



南

藤青果



栄町通

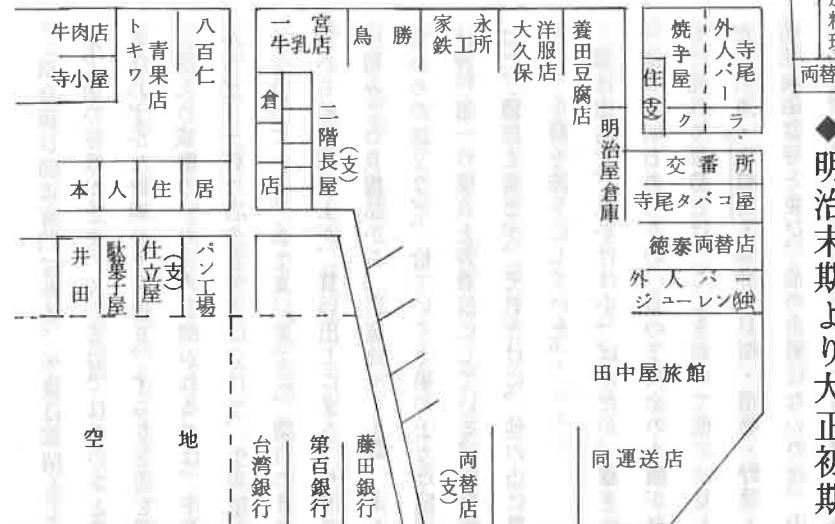
— 丁 目 —

北
西 — + — 東
南



京町

◆明治末期より大正初期◆



八

名稱こそ南京街市場だが、この朝市を牛耳る商人は、名実ともに日本人で、その根幹を成すものは何といつても、生鮮魚類をひさぐ、彼等のねじり鉢巻である。そして、⁴お天当さまが頭上にあがる頃ともなれば、水の干くようにはたばたと盤台を洗つて、その姿を消す。そんな時刻まで、まだ水っぽなれ悪く、荷をおろしているものは、この市場では、とんだ場違野郎と嘲りを受けるのが落であった。

氣肌の良い日本人とは対照的に、中国人の商取引は蜿蜒として夜まで続いて止まない。その多くは、南方貿易商と豚肉商だが、それに続くものは雜貨商であり、中華料理店であり、食料品商、洋服仕立屋、理髪店、漢藥舗である。なかんずく異色のあるのは雜貨商で、その店内には、食料品から雨傘穿物⁶にいたるまで千差万別、全く、文字通り萬屋で、彼等の大陸的国民性をいかんなく發揮していた。試みに、その商品の一斑を挙げて見よう。まず食品としては鱻の鱈・干蝦・干貝・干魚・土卵・干あわび⁷・きんこ・椎茸・砂糖黍・漬物・干餽飪・寒天・にんにく・朝鮮人参・食用蛙・老酒・塩・醬油・食用油・

酢・仙香・香油・色蠟燭・神仙用色紙・筆・墨・硯・紙印材・印肉・爆竹・粉白粉・紅・美男かつら・南京玉・翡翠・薬研・鉛庖丁・杓子・土鍋・鐵鍋・陶枕・屎瓶・雲祥籠・傘・沓等、およそ日常生活にはことを欠かさないだけの、配慮が払われている。

次に食糧品店だが、ここも亦混然雜然として、豊かな中国色をちりばめていた。月餅・豚饅・餡饅・粽・ヤブチャカ（メリケン粉の振りん棒を油で揚げたもの）砂糖漬蓮根・全青梅・胡麻飴・龍眼肉・荔枝・西瓜の種・落花生等——一ヶ一箋の豚饅・ヤブチャカから、比較的高価な荔枝・龍眼肉まで、人々の食欲をそそるに十分である。

メリケン波止場を上つて来ると、海岸通り栄町通りのそこここに両替店（マネー・エキスチエンジ）とか、錢莊と看板の掲げられている舗を見かけるだろう。外国の首ダラ（ダラー銀貨）を両替に行くと、机の上にチャリソ⁸と放り出して、その真贋を音色で利き分け、二〇箋とか五〇箋とかと交換してくれる。この鑑識の妙と手捌きの鮮かさは、当低日本人のよくするところではない。

彼等の獨占事業たる所以である。

大正元年に革命が成つて、清朝は太祖以来三〇〇年の覇者の座を降りると、世は中華民国元年となつた。今までも日本人が、ビンチャヤと惡視していた弁髪に、お釜罐をかぶり、夏季は薄い透綫のよくな、黒褐色の羅をまとい冬季は長袖の綿袍を裾長に着流し、繻子の沓を伊達に穿いていた姿が、漸次見られなくなつた。同時に、蘇州美人のあの楚々たる細腰も、艶冶な纏足⁹も、蓮歩も警見することが出来なくなつた。纏足の最も尤なるものを金蓮¹⁰という。非現代的だが、よく愛蓮の情を知るものには、頃日、中国婦人の大足を見る時、竦然として一種の郷愁に似たものを感じずにはいられない。纏足は必然的に減るべきだ。減びねばならない。かく首肯しながらも、私は金蓮の詩に、囚われないではいられない。

黒ぐろとした頭髪を固く後に梳きおろし、小さな鬚をつけた前髪をぱらりと散らして、故意と櫛とか簪リボンといった飾りものを嫌つた。中国の少女は、實に激済としていて可愛い。ただ中年婦人の腕頸に絡みつけられた黄金の環と、五指に飾り立てられた黄金のかず數は見る

からにして、俗惡な趣味性といわざるを得ない。
可愛いといえば、中国の芸者さんの美は、恰で、芙蓉か、咲き誇った牡丹のようなあでやかさがある。南京白粉と頬紅で顔を粧い、美しい刺繡の服をびたりと身に着けた、匂うような美しい容姿には、遊子ならずとも心をうごかさずにはいられなかつたろう。「翡翠の環耳に鳴る夜のひと涼し」まことに騒人ひとを欺かずである。彼女達は、座にはべつても、わずかに酒間をとりもつだけで、荀初にも、蓮つ葉に流れたり、悪ふざけをしないものは男芸人の役目で、彼女等の举措は終始かわるところがない。いついかなる場席で浮名を流すのか、知るよしもないのが遺憾である。現在、元町通一丁目牡丹園中華料理店のある穴門筋と、鯉川筋の露地裏に、彼女等の妓院があつたことを記しておこう。

「春滿吉家門……花開富喜多」戸毎に真紅な春聯が貼られる、¹¹淑氣はおのずから街衢に溢れる。元朝未明から放たれるパチパチ（爆竹）は、實に壯觀なものである。海岸方面の大きな商敍の一階ペランダからは、赤や黄の

紙袋に入った爆竹が、地上近くにまで垂れ下がられ、それが一斉に、派手な爆発音を、小歎みなしに打ち上げるのだ。それが彼等の迎春をことほぐ、第一声である。

元旦爆竹累累 日三竿に至りて已む

街路爆竹の殻 紅雲の如し

まさにその通りである。

爆竹の種類には、ドンと地上を蹴り、空高く飛び上つたところでパンと爆る、男性的なドンパンというのがある。価は一〇箇から、大型になると一発一円もするがある。皿の上で何旋回かして、シユウッと火焰の尾を曳いて舞い上ると、パンと散華するのを皿廻しといつて、これは一五箇か二〇箇が通り相場だ。中国の老婆や少年

等が、新春のほまち稼ぎに、一袋一五箇から五〇箇くらいの紙袋入りパチパチを、露路の辻辻で売っていた。よい儲けになるらしく、やがて日本人の中にも、この独占事業をおかすものが出て来た。そして、今も渝らぬことの一つに、武財神閔帝廟には終日参詣者の跡を絶たず、香煙とこしえに縷縷として焚ちこめていることである。

中国人が冠婚葬祭にかける費用は容易ならざるもの

れる。員林のそれは、型こそ稍稍小粒だが風味は斯界隨

一の佳品として好評噴噴たるものがある。これに対比して、台南のバナナは粒こそ大型だが、その風味の点に於ては、前者に一筹を輸するとされている。

出荷状態は晩春から、梅雨過ぎにかけてが最盛期で、味覚もその頃が最良のようだ。積荷は第一突堤の岸壁より弁天浜に陸上げされ、龍門の氷蔵の南側で、仲買人の手によって芽出度く市が開かれる。仲買人は、昔ながらの、袖や前垂の下で指を握り合って、相場を立てるという寸法である。アンペラ一箇、一二貫入りを以て建値としていた。

揚荷したばかりのバナナは、未熟で硬く、青青とした表皮をかぶつていて、直ちに食用には供されない。まず長持のような大きな木箱に入れて、地下倉庫に密閉しておく。五六日の期間をおいてとり出すと、甘味もついて

黄熟し、今こそ十分市販に堪えられるようになっている。この黄熟過程までの技術と操作に関する限り、南京街の青果商人は独創的才腕を持つているらしい。彼等が全国的に、バナナの利益を壟断していた原因がここにあるの

ある。丸蒸しにした豚の尻に、紅で色どった葱を挿入しめたのを担ぎ込んで、夜を徹して痛飲放歌するさまは、とても日本のそれの比ではない。花嫁の家に贈る黄白を持たない若者は、いつまでも独身をよぎなくなされる。一人の妻を娶るに、この莫大な費用は、今もつづいて行なわれているのだろうか。花嫁を送迎する爆竹の音は、未來永劫その後を絶たないことだろう。

送葬の費用も、結婚式に劣らない大袈裟な伝統がうけつがれている。「哀号！哀号！」と泣き婆を雇つて表現過剰な悲泣を張り上げさすのも、古い中国の因習の名残りだ。

◇ ◇ ◇

ここで話題を一変して、神戸に、台湾産芭蕉の実が初入荷した当時の想い出を語つて見よう。

台湾からバナナが舶載されて來た沿革史については、稿を他日にゆずるとして、その大量に入荷したのは、けだし、明治末期から大正初期にかけてである。出荷港は基¹²島で、出產地は全島一帯と広範囲に亘っているがその主產地としては、員林、台南、屏東、二水等が挙げら

だ。

その頃のバナナの買付業務は、全部委託制度で、日本の仲買人達の間には、随分阿漕な暴利をむさぼつたものもあつた。バナナ船の入港が、時化か何かの海難で延着でもすると、積荷の一部が必然的に老熟する。その機に乗じて、悪仲買人達は例によつて、協定という馴合相場で買い敵くのが常套手段のようになつていた。空籠一個一五箇に売れたバナナが、一箇一〇箇で落札されたこともあつたとは、当時の老仲買人が笑いながらはなしてくられた、懺悔ばなしである。明治の初めに、歐米の先進国から随分と辛い目を見せられた日本人が、やがて時と所を得ると、商人としては風上にもおけぬ、こんな非人道的な人間に豹変していようとは。俗にいう、江戸の警を長崎で打つたぐいだ。

明治末期から大正初期にかけて、台湾青果芭蕉の実仲買人組合の組合長をしていた長谷川佐吉氏は、こうした弊を取り除き、本来の軌道に商取引を乗せようと、日台間に奔走の結果、ここに始めて、近代組織に則る、台湾青果株式会社と日本荷受組合が誕生したのである。

バナナは元来高価な果物ではない。当時の市価は百匁につき、五箇から一〇箇の間を上下していた。それは極めて老熟腐敗し易いという欠点に拗る。年配者なら誰もが御存知の、例の毒舌と啖呵を売りものに、新開地その他の熱鬧の地を式内にしていた。籠棒に安値なバナナの蔽き売り風景に、憶いを喚び起していただきたい。

底を割つたはなし、あの種のバナナは格落ちものなのである。まつとうな市販に耐えられない、明日にも危険が迫つてゐる老熟品とか、型の悪い三等品以下を、彼等香具師仲間の手に渡すのだ。アセチリン瓦斯や、うす暗い電光の下では、結構それが飛ぶように売れてゆくところに、人の世の妙味があるのでないだろうか。

(一)歴史と神戸 第七号・一九六三年刊所収)

「南京街の半世紀」注解に寄せて

神戸史学会員 三船 清

何分、前の時代のことが書かれているので、今の若い人は通じないことも多いし、また岸氏独特な難しい語句も散見する。

それでおこがましいけれど、私が注解を加えると共に、
明らかなアテ字は修正した。

それでおこがましいけれど、私が注解を加えると共に
明らかなアテ字は修正した。

史学会代表、落合重信氏のご承諾を得た。

参考までに岸百艸氏の作品の掲載誌を掲げる。

「湊川神社繁昌記」

「歷史隨想」

「回憶の子」

以上、健康保険組合連合会「兵庫支

しかし、岸氏の風格ある文章の味の損われることを慮

注　解

1 六頁下段二行目

「蓄年老化」は「逐年老化」

2 七頁下段四行目

「蓄年老化」は「逐年老化」

3 九頁下段十六行目

「蓄」やぶさかであろうから正しくは「客」であろう。

中国の人が寝所の近くにおいて小便をするときに用いる器具。陶器製で、日本のものと形は似ているが、少し大型になる。

9 一三頁上段八行目

纏足（てんそく）

女児が四、五歳になつた時、足の第一指以外を折り曲げるよう長い布で縛る足の発育を妨げ、大きくならないようにしたところの中国の風習。昔の中国では足の小さいのが美人の第一条件とされた時代もあった。大正元年、中華民国になってからは殆ど絶滅といわれているが、私が大正の終り頃、正月に南京街へバチバチを買いに行つた折、纏足した老婦人をよく見かけた。

4 一二頁上段四行目

「お天当さま」は「お天道さま」（太陽）

5 一二頁上段四行目

「水の干くように」は「水の幹くように」

6 一二頁上段十四行目

「雨傘穿物」は「雨傘履物」

纏足することによって足は萎縮したようになり、その形状が蓮の花の蕾状に似たことからできた言葉であろう。金蓮の外、新月、春筍（春先の筍のように小さく可愛らしい）等の名称が、岸氏「そぞろ或る

5 一二頁上段終りから三行目

「きんこ」なまこを乾燥したもの。漢字では「海産」。

ここに挙げられた海産物はいずれも北海道産である。

8 一二頁下段終りから三行目

「屎瓶」は「溲瓶」（しゅびん。神戸ではしごんと呼ぶ）のこと。

金蓮

記」に記されている。

足が不自然に未発達だから、歩行は困難である。この危なっかしい歩き方がよしとされ、蓮歩という言葉も生まれたのである。

11 一三頁下段終りから三行目

「淑氣」（しゅつき）は「祝氣」ではないだろうか。

12 一四頁下段終りから一行目

「基倫」は「基隆」（キールン）。

13 一五頁上段四行目

「一等を輸する」（いっぢゅうをゆする）。やや劣るの意。

14 一六頁上段五行目

「熱鬧」（ねつとう）。繁華なところ。

むかし「青い錨」

林 喜芳

私の貧しい小著「わいらの新開地」が奇縁になつて、海文堂の小林さんから「月刊・ブルーアンカー」を頃いた。「青い錨」英語にも未熟な私でもこの程度はわかる。

そして直ぐ思い出したのが、むかしの「青い錨」である。

「青い錨」はカフェーの名前で、画家今井朝路の店である。年配の「仁なら」承知の方も多かろうが、毒舌和尚今東光が関西学院学生の頃、親友だったこの今井朝路の話を週刊誌はじめ幾つもの小説に登場させたことがある。つまり、元町の名物男「赤マントの朝やん」のことである。たとえば、今東光は次のように……。

「このデカダン画家はオスカーワイルドを氣取つて、背丈ほどある真紅のマントを着て歩くほど、ちょっと見るのはなはだキザっぽく、ダンディな男のくせにその恋愛ときたら、思いきった日本趣味、古風な大きな桃割れである。

今井朝路は画家であるとともに秀いでた詩人であるとも聞いた。詩集はなく詩作品も私は見ていないが、前記青山順三の手元に残るバー開店の挨拶状を見てもそれと知れる。次にそれを写すと、

（敬称略、むかし免くださ）

○

L'ANCRE BLEUE

CAFÉ THÉ & BAR

（蛇足ながら大正の末、昭和はじめの頃の海文堂は一番街協和銀行のところにあって、海事関係の堅い書籍で埋まっていたようなお店であった。私は「裸人」とか「街頭詩人」という同人雑誌の依託を幾度かお願ひに行つたことがある。この主人は快よく店頭に場所をあけて平積みにして置かせて下さった。それが有難く、いまも覚えてゐる。）

「青い錨」の開店

主人敬白

L'Ancre Bleue は青い錨

L'Ancre Bleue は青いインク

「青い錨」の御挨拶状をどう書けばよいかな、いま私は金ペンを青いインクの中に沈めました。

青いインクは海の匂いでいっぱいです。

に髪を結い、黄八丈の袖の長い着物に帯は黒襦子と紺鹿の子の昼夜帯、まさに芝居にててくる八百屋お七みたいな娘だった。

このデカダンと江戸好みが手に手をとつて元町の通りを平気で歩くのだから、住き交う人は眼をむいて驚いた。

今東光は小説のなかでも実名のまま描いているので、その頃を知る人はたちまち記憶を取り戻したにちがいない。

後年、彼と親しかった竹中郁らが渡仏した。それを追

うように今井朝路も宿望だつたパリに赴いたのである。

話を縮めるが、帰国後、彼は元町五丁目今井度量衡器店（ここが彼の実家）の横小路に画塾を開いたが思わずくなかったのか、直ぐ傍に欧風茶寮（カフェーの訳語であろう）「ランクル・ブルウ」（青い錨）を開店した。フランス帰りがフランス土産にフランス語で命名したのだ。私はまだ未青年の素寒貧（すかんびん）だったので、そこを覗いたこともないが、畏友青山順三（関学では竹中郁や坂本遼と同期生）の言葉を借りると、「なかなか高雅な落着いた酒場で、彼の口からときどきフランス語がとび

そしてまた、異国の酒や珈琲や茶の匂いでいっぱいです。

さて、私はおもむろにペンを拾いあげて、意気な水夫『KOBÉ』の腕ぐ、ほんのちょっと刺青を彫りつけました。

<Ca c'est L'Ancre Bleue>

（いれが「青い錨」です。）

今井朝路は画家であるとともに秀いでた詩人であるとも聞いた。詩集はなく詩作品も私は見ていないが、前記青山順三の手元に残るバー開店の挨拶状を見てもそれと知れる。次にそれを写すと、

○

父と食べ物

白井 操

子供の頃から、父が、昼間から、蒲団を敷いて寝ている所を見た事のない私は、不思議な気がし、その姿を見るのは、とてもつらい思いのする毎日でした。でも、誰よりも健康で、白髪もなかつた父にしてみれば、この計算外の出来事をどんなに悔しい思いで、受けとめていた事でしょう。

いつもの事ながら、やれ誰かの誕生日だ、結婚記念日だといえば、それをだしにして親兄弟が集まり、おいしいうものを分けあい、お酒を楽しんでひとときを過す……。この事が習慣になっている我が家は、その年の十二月にもいつもの様に皆が集い、おいしいもの食べて楽しい時間を過したのです。父は又、上気嫌で皆を玄関まで送り出したのでした。そして、異変はその夜、はじめて襲ったのです。普段、熟睡出来る事を自慢していた父が、夜中

いくルールや、人生の楽しみ方を話して聞かせてくれたものです。父にとって、おいしいものとは、あたゝかい会話だったのかも知れません。

外で飲むコーヒーの味がちがうのは、一杯のカップの中に、良い音楽と壁の絵が入っており、それは、タイミングよく持ってくるウェイトレスにかかるといふともいわれます。でも家庭で、ゆっくりと飲むコーヒーの味も又、いいものです。食事もそうだと思います。家庭で楽しむ夕食は、仕事の話しを忘れ、家族の笑顔と会話を楽しむのです。父も仕事柄、そういう子供達と夕食を楽しめたわけではないのですが、今、私が子供の頃を思い出す時、いつもの席でニコニコしながらグラスを片手に持ち、子供の話しを聞いていた父の姿が浮かぶのです。兄弟それぞれに訪れた反抗期の時も、皆の要求に対し、とりあえず、話は最後まで聞いてくれた父でした。話を聞いてくれただけの方が多いが、満足なも

父は明治から大正により名が変わる時に生まれたのです。

に何度も目をさまし、もどしたというのです。これが事の始まりです。それから二度に渡る手術を弟の義兄にしていました。皆の祈りの中、半年後のあじさいがぼちぼち色づきはじめる頃に、体重を10kgも減らして帰ってきたのです。そして、たつた六ヶ月でした。その年の十一月に父は、天に召されてしまったのです。その朝、私は父の病気がすい藏ガソであつた事をはじめて知らされたのでした。六十八才でした。……

父は話し好きで、人生の楽しみは人と語りお酒をくみかわし、おいしいものを共に食べる事だといつも言い、食事を楽しんで、又興味を持つて食べる人でした。父の思い出を語る時、食事の時間を抜きで、語ることは出来ません。たつた少しのものでも、珍らしいものがあると、「みんなで食べると尚、おいしくなるよ」というのが口ぐせで、一口食べたら終わりになるものを囁み、それぞれが、それにまつわる話しをします。そして食卓の上のものは、何もなくなってしまっても、余韻を肴にして、又話しははずむのです。こんな時、よく父は、生きて

すが、その嗜好はすこぶる現代的でした。母は、「こんなもん見えるか」といわれた事は一度もないけど、結構注文は多かったワ」と話しています。そりや、大変だったと思います。父の言う事は、たしかにごもつともな事が多いのですが、毎日の生活の事とて、そう手間なものも出来ず……。たとえば、レモンの事一つにしてもこうでした。「どうして、なんでもかんでもレモンが添えてあるんだろう。それを又、みんなはじめから一口も食べずにジュッとしぼるのかなー。みんなレモンの味が、するやろうになあ」、というのです。父のいいたいのは、「そのものには、そのものの味がある。まず一口食べてみて、それから、塩なりレモンなり」という事なのです。そして、出来ることならそのものに合つた、ソースをつけて食べる……という事でしょう。だから我家の食卓の上には、ウスターソースがそのまま置かれる事はありませんでした。出来れば、コロッケもトンカツも、たとえケチャップとウスターソースを混ぜただけのものでも、何か手作りのものが欲しいという所です。私達子供達は、ウスターソースにあこがれたものです。父が留

守の時などそーっとかけてみては、「これはこれでなかなか、おいしいね」などと感激したものですが、これが不思議な事に主婦になつた今、バタバタしてソースが作れなかつた日など「ごめんね、時間がなくて…。」などと、あやまるくせがついたのはどうしてでしょう。

又、父の口ぐせの一つに、お酒にのまれてはいかんぞ♪というのがあります。自分もことのほか、飲むことが好きだつただけに、常に自分にもいい聞かせてきた言葉だったのでしょう。

今、父は写真の中から私達に語りかけます。夏のビールは、コップまで冷してあくまでも冷たさをごちそうにな……。

ブランデーは両手のひらであたゝめて、その香りを楽しむんやぞ……。

白ワインは魚介料理に合うぞ、少し辛口のものを、冷蔵庫でゆっくり冷やしてな……。

肉料理の時は、赤ワイン。まあ冷暖房のきいてない部屋ならそのままで……。

シャンパンはホテルの宴会なんかで、ポンポンと音を

たててあけるけど、本当は布で口をおさえて静かにあけるのがいいナ……。それより以前に、グラスは、麻の布でピカピカにみがけてるかな〜と。

もつともっと聞いておきたい事がありました。その時は、「ンモ～わかったー」といつていた私でしたが、今、つくづく反省するのです。もつと教えてもらえば良かったと……。でも、父のおかげで思いやりを持つて、台所に立てる事を感謝するのです。

その感謝が「愛きらきらスイートキッチン」を生んだのです。（白井さんは『愛きらきらスイートキッチン』の著者です。同書は若い女性に大好評の手作り家庭料理の本。当店にてお求めいただけます。）

能な本のリストである。

* * *

偕成社から日本で初めて子どもの本についての年鑑が

刊行された。児童文学アニュマル一九八二（定価七五〇〇円・七月末日まで発刊記念特価六五〇〇円）がその本。内容は子どもをとりまく、さまざまな角度からの発言で満ち満ちている。「本・子ども・大人」と題する河合隼雄・長新太・今江祥智三氏の座談が入っているし、「海外児童文学・絵本情報」も。もちろん、国内の児童文学に関することがらは資料篇として整理されている。資料篇では作家・画家名鑑▽クリスト一九八一▽図書館▽子どもの本関係団体▽児童文学関係雑誌▽児童図書出版社▽子どもの本専門店▽児童文学・絵本賞一九八一▽児童文学一九八一▽の九項目に分けて、膨大な情報を収録している。うれしいね、この本。

出版流通センター刊・二〇〇円）がある。最後の『ヒロシマナガサキ』は、『戦争体験』、『国防』、『核エネルギー』

『原子力発電』まで幅広く収録した、一般書店で入手可

「出版ニュース」（七月下旬号）の“情報区”欄に、日本近代文学館内にある「社会文庫」の目録が刊行されだと報じられている。それによると、社会文庫は故鈴木

茂三郎氏から寄贈されたもので、わが国の社会思想・社會主義關係文献の最大のコレクションといわれるもので幸徳秋水コレクションや「新社会学」という表紙をつけソヴィエトから密輸入した片山潛訳・レーニン著『國家と革命』などの稀観書をはじめ、原稿、書簡、諸文献など一三四五五点を所蔵しているという。刊行された『社会文庫目録』(A5判・二一八頁・定価記載なし)はそれらの資料を「特別資料」「図書」「雑誌・新聞」の三部に分け、巻末に図書の索引を付してまとめたもの。お問い合わせは、日本近代文学館II

〒153 東京都目黒区駒場まで。

郷土誌の窓

海文堂出版から『神戸港一五〇〇年』が刊行された。

創業以来、海にまつわる本を出版してきた同社だが、神戸の本は珍らしい。著者は鳥居幸雄・神戸市港湾局長で、港湾一筋のベテラン行政マン。この本は港の通史であるとともに、神戸の歴史にもなっている。△兵庫・六甲山の由来▽や△神戸港につながる人々▽△神戸と異人たちの項目もあって、港を中心とした幅広く神戸という街の発展に目が注がれている。ミナト神戸っ子に一読をおすすめしたい一冊だ。定価一八〇〇円。当店にてお求め下さい。

神戸市内に分布する指定文化財のすべてを写真と解説で紹介した『神戸の文化財——指定文化財のすべて』（一一〇〇円）が神戸市教育委員会から発行され、よく読まれている。神戸新聞七月十七日付の紹介記事によると、神戸の文化財は、国宝四件、国指定重要文化財百三

などを解説している。最後には古文書に出てくる赤潮の記録などをもとに市民生活との関連が書かれ、理科教材としても注目される。

* * *

市教委研所附刊

神戸「教育研究所が平行している「神戸の自然シリーズ」

興國中学校の小林辰至先生

『花月夜の三日月』が

「港のプラット」「里科教材」
行家、行者

△プランクトンと市民生活△の四項目に分けて記述され

ている。採集・観察方法に始まり、港に生活するプラン

クトソをケイソウやミジノコノシテ原用則ニ充

（写真）各部の写真を項目別に写真とスケ

活動例をとりあげ、プログラミングの一環として、音楽

* * *

七月十四日付の神戸新聞に「差別の実態世界の人々に」英訳「部落問題」を出版」という見出しで記事が出ていた。記事によると、出版したのは兵庫部落問題研究所で、同研究所の理事長を務める神戸大学の杉之原寿一教授が一昨年五月に出版した『新しい部落問題(新版)』を全文翻訳したもの。内容は「部落の歴史」「第二次大戦後の部落の変化」「部落解放への展望」など六章から成っていて、一世帯あたりの平均収入や有病率などを説明する際に、神戸市など兵庫県下の資料が多く使われているのが特徴。この本の中で同教授は「部落解放は単に部落の人だけの問題ではなく、国民ひとりひとりの生活の向上と権利の拡大にかかわる問題だ。闘いの輪が大きく広がる中で、部落の完全解放への夜明けが近づいている」と書いている。英文の解説書としては、昭和五十二年に部落解放研究所(大阪)が発行した『日本の部落民』に続く貴重な出版で大きな反響を呼んでいるという。

* * *

『季刊・淡路の文化』(初夏号)が「縄一揆(なわいつき)」の特集を組んでいた。「縄一揆」は天明二年(一七八二年)に起こった淡路島最大の百姓一揆。七月十四日の読売新聞「手帳」欄に紹介されている。ことの起りは、役所に取り入って役人となつた商人が、運上米や木綿、繩などの徵収を強化、とくに縄の検査をきびしくして不合格にするなど農民を困らせた。これをみかけた宮村の才蔵らが中心になり百姓を動員して起こした騒動。新見貫次さんが書いておられる。定価六〇〇円。当店にて販売中。

* * *

加古川流域史学会が発行している雑誌「季刊・河」(二十二号)が届いた。目次は通り。

○石幢(下)(円陽石造物歴遊五)…………三浦孝一

○新害虫の侵入とその対応——防虫近・現代史のひとつまとして………………岡本大二郎

○銅鐸文化虫論………………船起昌

* * *

学陽書房からはこのほど『ポートピア'81成功記』(一五〇〇円)が発行された。この本はポートピアの舞台裏の経過を刻明にたどることにより、神戸という一都市の活力を見事に写しとった貴重な記録といえよう。地味ではあるが、舞台裏のあれこれの逸話はアイデアと情熱に満ちた苦闘の人間ドラマだ。取材と草稿作成は、神戸都市問題研究所の阿部環氏の手による。前号で紹介した『公式記録』『写真集』と併せ読むことによって、ポートピアの主催者側からのアウトラインは一層明瞭になるだろう。

* * *

作家・村山悠さんを囲んで文章を学んでいるよみうり神戸文化センター「よみうりベンクラブ」教室の人たちがはじめての創作作品集『文藝雑誌・ゆー』を出版。当店にてお取り扱いすることになった。教室のメンバーは大半が四十歳前後の主婦で、それだけに書かれている内容は日常生活に材を得たものが多い。生活感のあふれる作品集だ。定価九五〇円。当店、△郷土の本△コーナーでご覧ください。

「歴史と神戸」(通巻112号)の方もタイトルだけご案内します。論文は次の二本だが、落合重信先生が「新刊旧刊・昭和56年度分」を五ページ分書いておられる。ここには五十六年度に刊行された郷土関係の図書に対する落合先生の感想・論評が簡明に記されていて大変参考になる。当店にてお求めいただけます。

- 兵庫津から神戸へ……………成田謙吉
- 摂津国八部郡輪田荘の盛衰……………木南弘

* * *

大阪や神戸から船に乗るのに大変便利な時刻表が出版された。財團法人・関西交通経済研究センターが作成したもので、フェリーと旅客船のコンパクトな時刻表。発着場が地図入りで紹介しているし、乗船の手続きも詳しく説明されているので重宝だ。定価もまつたくの。サービスとかで一〇〇円。港の売店と当店にて販売中。部数に限りがありますので売り切れの際はご容赦ください。

(N)

「海文堂絵本ブッククラブ」とは？

いまわしたちのまわりには、たいへんな数の絵本がはんらんしています。このなかから、本当にいい絵本を選び、子供に与えるのは、いいたい選れの仕事なのでしょう……。それはお母さま、あなたのお仕事です。

でも考えてみると、それは簡単なことではありません。「海文堂絵本ブッククラブ」は、そのお母さまのお仕事と、お手伝いするために生まれました。



すべての絵本を5つの分野に分けて ます72冊を選びました。

日本の絵本、外国の絵本、新しい絵本、伝統的な絵本……数多くの絵本のなかから、A)色彩の美しさ、B)絵のおもしろさ、C)スト

ーリーの楽しさ、D)知識が得られる、E)文章がリズミカルで覚えやすい、の5つの分野で、それぞれすぐれている72冊を選びました。

この72冊から、 お母さまご自身が1年12冊を選択して……

お子さまのことは誰よりもお母さまがお知りです。お子さまの1年の読書計画を、お母さまご自身でおなじみいただく、それが「海文堂絵本ブッククラブ」の大きな特長です。前述の72冊のなかから、お母さまの育児ポリシーにもとづいて毎月1冊、年12冊をお選び

いただけ、それを毎月1冊、月のはじめに海文堂からご自宅にお届けするのです。その順序や本の選択については、海文堂「児童書ゾーン」の責任者が、児童教育に関する専門知識とともに、いろいろとご相談に応じさせていただく体制になっています。

絵本をご覧になりたい時は 海文堂書店の「絵本ブッククラブ」コーナーで

実際にご自身の眼で絵本をご覧になり遊びたい、と思われるお母さまには、海文堂書店の「絵本ブッククラブ」コーナーに、全72冊を月

別に整理して展示いたしました。あまり広くありませんが、専用のデスクも用意していますのでご利用ください。

「海文堂絵本ブッククラブ」ご入会の手続き

- 1) 「入会申込書」に、お母さまのお名前、お子さまのお名前・年令・ご住所等を記入ください。
- 2) 「入会申込書」裏面の読書計画表に、月別絵本グループから毎月1冊を選びご記入ください。
(絵本の内容について詳しくご説明したカードがありますので、参考にしてください)
- 3) 読書計画表にご記入いただいた書名にしたがって、代金をお支払いください。
1か年分(12冊分)1括払いのほか、5か月毎のお支払い方法もあります。
- 4) ご自宅への配送をご希望の方は、1年分3,000円(6か月分の場合は1,500円)の送料を、申込時にお支払いください。
(毎月、店舗での受けとりをご希望の方は、送料は不要です)
- 5) 申込手続きが済みましたら、会員カードを発行いたします。
(会員カードはいろいろな場合に提示していく必要がありますのでご英店時には必ずご持参ください。)
- 6) 絵本代金・送料のほか特別な人金は不要です。

(ご注意)

- 入会申込時にいただく絵本代金・送料は原則として返金できませんのでご了承ください。
- 読書計画提出後の絵本の変更は、発注時間等の関係から原則として行なえません。そのような必要が生じた場合は係員にご相談ください。
● 毎月2冊のコースもご利用できます。

A 色彩が美しい絵本

絵本は、まず見るもの、といった観点から、色彩の美しい、見ただけでも楽しめる絵本を選びました。
美しいものに対する、子供の感覚を正しく育てるのも絵本です。

B 絵のおもしろい絵本

これは絵本の原点です。おもしろい絵、楽しい絵、思わず画面にひきこまれてしまう……そんな魅力を持った絵本です。

C お母さまが読んであげて おもしろい絵本

絵本は与えっぱなしではいけません。お母さまが子供に寄りそってお話しをしてあげてこそ、絵本はイキイキと息づくのです。

D 内容が役にたつ絵本

子供は絵本からさまざまな知識を身につけます。
いままで知らなかった世界を知らせてくれる……これも絵本の大切な役割りのひとつです。

E 子供が覚えてしまう絵本

とてもリズミカルな言葉なので、子供が自然に覚えてしまう絵本です。子供は、こんなことからも正しく美しい言葉づかいを知るのです。

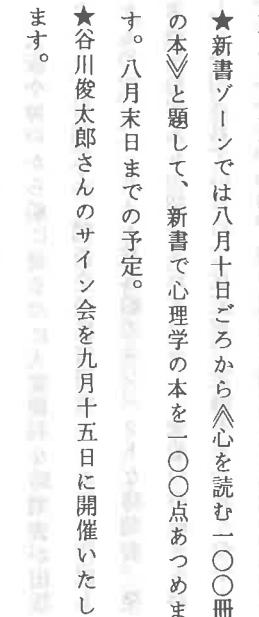
「海文堂絵本ブッククラブ」ご入会いただくと…

- クリスマスにはお子さまに絵本プレゼント。
クリスマスに関係のある絵本を1冊、お子さまにプレゼントいたします。
- 誕生日にバースデイカード。
お子さまのお誕生日に、「海文堂絵本ブッククラブ」から、特製のバースデイカードを送らせていただきます。
- お子さまの読書記録をおつけいたします。
当クラブでお申込みいただいた本はもちろん、当書店でご購入になられた本を、一枚のカードに記録させていただきます。
読書を通してのお子さまの貴重な成長記録となることでしょう。
- 新刊書・新刊児童書のご案内をさしあげます。
新しく刊行された本・児童書についてのご案内・紹介書を送らせていただきます。
- 雑物へのご縁物・ご案内をいたします。
当書店で購入の各種雑物へ、優先的にご案内(あるいはご招待)させていただきます。

★海文堂書店では、かねてより計画しておりました「海文堂絵本ブッククラブ」の会員募集を開始しました。クラブのご入会手続きや特典など詳細は31・32頁をごらんください。

この「海文堂絵本ブッククラブ」発足にあたって、第一期選定図書七十二冊の全点を東入口前のハブック・ラザベに展示しています。展示期間は八月五日から八月三十日ごろまでの予定です。ご入会のお申込みは一階中央のハゴ案内コーナーにて受け付けております。

★二階ギャラリーでは、八月七日から十五日まで△海の版画展△を開催。その後、八月二十一日から二十九日まで、モダーン・プリミティブの巨匠ジャン・バレーの楽しい版画三十点を集めて△ジャン・バレー展△を開催いたします。九月に入つてからは、九月四日から十二日まで、週刊新潮でおなじみの田中正秋さんの版画展△日本のみつり△を予定しています。ご期待ください。



★児童書ゾーンではミニ企画ですが△なつやすみ自然観察の本△と△戦争児童文学△のコーナーを作っています。
★文庫ゾーンでは八月一日から二十日まで△文庫で読もう！芥川賞・直木賞△フェアを開催しています。(岩波文庫前の平台にて)

★新書ゾーンでは八月十日ごろから△心を読む△○○冊の本△と題して、新書で心理学の本を一〇〇点あつめます。八月末日までの予定。

★谷川俊太郎さんのサイン会を九月十五日に開催いたします。

〈珠玉の72冊〉

書名		文・脚	年令	内容	価格	書名	文・脚	年令	内容	価格
1月	ふしぎなサークス	安野光雅・繪	B	480		よあけ	ユーリ・ショルヴィング・作	●●●	A	920
	ゆきのひ	キーツ・作	C	780		ばばのまる	作		C	900
	ことばのこぼこ	和田誠・作	●●●	E	1,400	衛田之久・作	○○○	O	1,000	
	アイスクリームがふってきた	西脇男女・大友柳天監	O	C	880	じぶんでもらう	H.A.レイ・作	●	B	880
	せかいかのひとびと	ピーター・スピア・作	●●●	D	1,200	もりたろくさんのひこうき	香山ひじる・著		C	600
2月	しろくまちゃんのほっとけーき	わがやまけん・作	●	E	500	あかたろうの1,2,3の3,4,5.	きたやまようこ・作	●	E	580
	ゆきたるま	レミンド・ブリックス・作	○○○	A	890	海は広いねおじいちゃん	五味太郎・作	○	A	880
	あかんべノンタン	おおとおやまざき・著	●	E	480	からたろう	いとうみよし・著		C	650
	なまをたべてきたの?	岡田洋子・長野周一監	●	B	780	海	がことし・作	●●●	D	1,000
	かえるがみえる	佐藤孝子・ばばのまる監	E	E	600	くれよんのはなし	フリーマン・作	●	B	780
3月	てぐくろ	ラヂヲ・作	C	550	ぞうくのさんぽ	ちがむさまたか・著	●	C	480	
	フランスのいいで	ホーバン・作	C	800	ぐりとぐら	ちがむさまたか・著		E	480	
	はろほどとむらさきのくれよん	ワカド・ジョンソン・作	B	680	あかいふうせん	いわきひろ・絵	○○○	A	780	
	もぐらとすばん	ベシカ・ミレル・著	C	880	てのひゆうえんち	円崎忍・作		C	960	
	ほね	底内誠一・作	D	550	みんなうんち	五味太郎・作	●	D	550	
4月	わたしのワンピース	にしまきがやこ・作	●	A	800	ペーコンわすれちゃだめよ	パート・ハッテンス・作		B	780
	イエベはぼうしがだいすき	石龜聖郎・作	C	1,200	わたしとあそんで	エツツ・作		C	700	
	そらはだかんぱ	五味太郎・作	O	E	580	おやすみなさいのほん	ひざじゅらく・著	○	E	700
	木のうた	イエラ・マリ・作	○○○	A	980	わたしのあふねマギー日	アイリーン・ハース・作	○○○	A	880
	はじめてのおつかい	西村靖子・林明子・監	C	630	もりのあかしやさん	円崎忍子・内崎晃男・著		C	580	
5月	野の草花	古賀一重・林島豊太郎監	●●●	D	1,000	おだんごばん	わきたかず・絵		E	800
	せけんつるりん	今井千子・作	B	880	おおきなさいどう	寺澤立・田中勝子・著	○	B	960	
	いたずらきかんしゃちゅうちゅう	バートン・作	C	750	もりのなか	エツツ・作	○○○	C	650	
	いただきます	きたやまようこ・作	●	E	990	ぼくのばん・わたしのばん	森沢利子・林明子・著		D	550
	はらべこあおむし	エリック・カール・作	○	A	1,200	ねえさんといもうと	ジーロット・クロア・著 チャーチョラン・著		A	760
6月	きょうはなんのひ	西村靖子・林明子・著	○○○	C	760	タンタのぼうし	いわきらかずお・作	●	C	580
	ゆびくん	前川千鶴・作	●●●	D	1,980	おおきなかぶ	内崎晃男・著	○	E	480
	かさ	五味太郎・作	O	B	880	もりのかくれんぼう	末吉慶子・林明子・著	○○○	B	680
	てがみをください	岩谷みづき・著	●●●	C	980	かいじょうたちのいるところ	センダク・作		C	1,100
	どうぶつのかくれんば	安田勉強・監修	D	B	880	からすのばんやさん	がことし・作	○○○	E	780

◆ 内容の、B、C、D、Eは、前述した範本の内容です。1年を通してバランスよく収容される
◆ ようにこれまでにない、年令別に分かれています。OOOは比較的年長(3歳以上)のお子さまに適した内
◆ 容などは、年令別に分かれています。しかし、●●●以外は、それほど年長にこだわる必要はありません
◆ ただし、お母さまがお子さまに読み聞かせるときに、お子さまが喜んで読める本を選びます。



いい絵本をわが子に

選りぬかれた72Booksから
お母さまご自身がお子供のために選んだ絵本を
毎月一冊、お届けします。



海文堂 絵本ブッククラブ